

20 回目の洋野町長杯 P G 大会

子どもたちの訪問に向け結団式も

より一層の友好を願って始球式



第20回洋野町長杯パークゴルフ大会が7月12日、浦幌町パークゴルフ場で開かれ、洋野町からの11人を含む52人が参加しました。友好の町絆協定を結んでから1年。開会式には両町が関係を深めるパイプ役となってきた両町のパークゴルフ関係者や、洋野町の日當博治副町長、浦幌町の水澤町長、鈴木副町長、久門教育長が出席し20回目の開催を祝い、始球式も行われました。その後、両町民が和やかにプレーし、親睦を深めました。

14日には、浦幌の小学生が初めて洋野町を訪問する「少年道外交流事業」の結団式及び事前研修会が中央公民館で開かれました。今年は5・6年生17人が夏休みに洋野町を訪問し、浦幌とは違った自然や産業、暮らしを体験し、未来に向けた友好を深める予定です。



洋野町への訪問団



浦幌町と友好の町絆協定締結

(岩手県)

洋野町だより

踊りを披露する参加者たち



北奥羽ナニヤドヤラ大会

洋野町大野地区では、毎年8月18日にひろのイベント事業実行委員会主催の「北奥羽ナニヤドヤラ大会」が開催されます。同大会は、旧南部領(青森県南・秋田県北・岩手県北)を中心とする北奥羽地域に共通する伝統文化として踊りつがれている「ナニヤドヤラ」の継承と地域間の交流促進、活性化を図ることを目的に行われています。例年、町内外から約35団体、総勢1000人以上が参加して、大野中心街

での街頭流し踊りやステージでの輪踊りで各団体の特色あるナニヤドヤラを披露します。舞台部門では、出場団体がステージでお互いの技を競い合い、有識者で構成する審査委員が各団体の「踊り」「唄・太鼓」「チームワーク」などを総合的に審査し、入賞団体には表彰状と岩手県知事賞などの副賞が贈られます。今年も、各団体の華麗なナニヤドヤラの舞が、多くの観客を魅了することでしょう。

コラムひとこと

ヒマラヤの岩塩

きざんだ野菜にばばと振って、うわーっ美味しい。

一ヶ月ほど前のこと「ヒマラヤのピンクの塩なんだって、食べてみて」と友人が言った。塩は得も言えぬ美しい桃色。あれ、ヒマラヤに塩湖はないはず、どうしてピンクの塩があるのか。図書館のSさんが調べてくれたのを見ると、ヒマラヤは岩塩の産地だった。今から四十億年前の地球の地殻変動で、陸に閉じ込められ、塩湖となった水分が蒸発濃縮されて結晶化、三億八千年前に岩塩層となったものとあった。ヒマラヤ山脈に埋蔵されているのは桃色だけでなく黒もある由。ネパールは貧しい国と思っていたが、この塩が世界中に運ばれるのなら富裕でないのが横切って『ネパールの集落』を読んだら、ほとんどが今も囲炉裏(いろり)と竈(かまど)文化だった。これから変化していく国だろうが、その展望はわからない。

ヒマラヤの岩塩、ピンクソルトとブラックソルト。ソルトは「塩」。今日も焼き魚にばばと振ったことだが、減っていきの心が残りではない。

(高橋悦子)